

掛合町掛合地区 防災対策について

Q170

耐震施設について及び防災計画の進捗状況はどうか。

A：掛合地区内で地震に対する対応ができるのは、掛合中・掛合小・好老センターです。S56以前の建物については、地震の場合に絶対安全だとは言えません。

また、地震以外の土石流について、県がイエローゾーンの設定を今年度中に行い、提示される予定です。水害のハザードマップについても今年度中にお示しできる予定です。

避難所は、それぞれの災害ごとに避難所を指定していく必要がありますが、中山間地域は安全であると言い切れる施設がありません。日頃の地域の中での自助部分をどう形づくっていくかが今後の課題です。防災計画は昨年度に策定しており、市のホームページに掲載するほか自主組織へも1冊ずつ配布しています。(総務部)

掛合町多根地区 地区防災計画について

Q171

雲南市地域防災計画が策定されている。雲南市全体として計画を策定して、各地域や自治会の実態を踏まえたなかでそれぞれの地域防災計画というものが必要であると考えている。計画の策定にコミュニティとして取り組んでいくが、策定にあたっての支援をお願いしたいと思っている。

地域の中心施設として旧多根小学校が多根ふるさと活性化センターとしてある。水害時には、浸水被害も起こるような立地条件だ。

避難場所としての設定もこうした状況を踏まえるときけないということで、代替施設の整備が緊急課題であると考えている。オンリーワン事業と言うことで市の方でも進めていただいているが、財政状況ということで当初の建設の期限が伸びているのが、当地域の現状だ。多根地区としても収容人数とか避難施設として現状では不足している状況だ。当面の措置として既存の施設である各自治会の集会所を避難場所とするような防災計画の策定に向けて検討を今年行っていきたいと思っている。行政からのアドバイス並びにご支援をお願いしたい。

A：今年度雲南市では、自然災害の災害範囲を予想し、災害の可能性があるところを地図に落としこむハザードマップ作成を年度内完成させたいと思っています。また避難場所の見直しが必要であると考えて

います。

もう一つ中山間地域は土石流の危険地域でして、これについてもどのくらいの範囲が危険かということになりますと、かなり避難場所の設定に困難を極めるのではないかと想定しています。そういった意味も踏まえて、それぞれの地域での検討を私どもも進めながら市民のみなさまにご説明をする機会をもっていきたいと思っています。

防災の対策として非常に重要なことが、防災組織を地域で結成いただくということが課題であると思っております。先ほどありましたように自主的な防災組織の取り組みをこれからしていただくということに對しまして深く敬意を表します。

私どもの考え方のひとつとしては、交流センターという考え方を示している中に、社会福祉協議会が主体の地区福祉委員会、民生児童委員さんの災害時一人も見逃さない運動がなされております。そういったところとコミュニティ、行政が一体となって、福祉部的な形の中で集落、自治会を基盤としまして防災計画、危険な場所、避難経路などを地域のみなさんで点検していただき、防災マップとか災害弱者のみなさんの情報をまとめたいと考えています。行き過ぎたら個人情報ということもありますが、どこまでこの情報を提供できるかという問題があります。これについては、あそこには車がないとか、あそこで何かあれば誰が助けることができるか、細かい区域で検討していただくことが実際に実効あるものになると考えておりますし、重要な防災対策の課題であると考えております。

今後こういったものを作り上げて行くといった地域の助け合いで問題を解決していくということに協力しますので、組織体制をご検討いただき、実効あるのものにしたいと考えておりますのでご協力をお願いします。（総務部）

Q172：[関連質疑]

例えば、各自治会に集会所があるが、後ろが山だったりして移動するにしても果たして安全かどうかかわからない。知識がなくてわからないので、専門的な知識をもった方で協力いただき、マップなどを活用して志食はここへ集まったら良いとか、中多根はここが危ないとかという指導をお願いしたい。一人ひとりの家を対象に考えないといけなと思っていますので、よろしく願いしたい。

A：危険な場所の想定は、中山間地域では非常に難しい状況です。実際にここが危ないという判断が時々によって大きく違ってくると思います。

安全であるという保証は難しいと思っております。雨の状況であるとか状況を学習し、情報の提供ができるのではないかと考えます。一緒になって学習を深めながらより良い体制づくりをお願いしたいと考えております。（総務部）

掛合町波多地区 ふるさと活性化センターを避難所として活用することについて

Q173

防災時の避難場所としてふるさと活性化センターが利用できるが、校舎で相当数を受け入れることができるとは思うが、昭和50年に大きな災害がありその時には県道が寸断された。そういう大きな災害にはどうしても体育館を使うことになる。体育館は昭和35年に建築され、建築後半世紀たっている。耐震構造は見込めないし、後ろには山もあるので心配である。

体育館は避難場所としてでなく、小学校の児童が毎週剣道に使用したり、地区のバレーボールチームや、地区の運動会などで使用している。掛合町のオンリーワンプロジェクトで当地区は体育館の改築を計画している。安心安全で、屋根の高い体育館が必要だと思っている。雲南市の考え方をお聞きしたい。

A：雲南市では、土石流や洪水の関係の自然災害の被害範囲を予測するハザードマップを今年度策定する予定です。問題は、掛合町の公共施設は土石流や洪水などの被害範囲にすべてが入ると思われることです。地形上、近くに山などが無い建物はありません。

したがって今の考え方では、一時避難場所は各地区の集会所など、とりあえず安全であろうというところを地域の皆さんと相談して決め、それ以上長期にわたる避難の場合は、安全な施設に移動していただ

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

くことを考えています。

今後ハザードマップができた段階で、またこのような会合を開いて協議をさせていただきたいと考えています。

災害対策については、阪神淡路大震災では地域のコミュニティで人命救助された率が72%、初期の災害救助は共助で、自衛隊などに頼むときには、大災害でかなり時間がたってからの活動となりますので、どうしても近くの方で（助け合って）やっていただかなければ困難であると考えています。

なので、交流センター構想の中の福祉部会で地域福祉の観点から地区福祉委員会、民生児童委員さん、コミュニティ協議会、行政が一体となって地区の防災計画をたてる必要があります。行政が防災マップを作っても、地域の人からみたら実際役に立たない恐れがあるので、今年から協議に入らせてもらって、来年交流センター構想ができたなら福祉部等の中で、自主防災組織のようなものを確立していただきたいと思えます。

施設整備は、財政面を見ると必要最小限しかできませんが、その中で避難所を考えていかなければなりません。このふるさと活性化センターも、土石流があれば一階は危ないかもしれません。2階は新しい建物なので大丈夫だと思えます。雲南市としては、ここを避難所として指定したいですが、場所としては2階でということになると思えます。避難所の協議は今年の秋にさせてもらう予定です。

（総務部）

掛合町入間地区 旧入間小学校を避難所とすることについて

Q174

災害があった場合入間地区では今まで公民館が避難場所であったが、旧入間小学校体育館が広さ的にも安全的にも一番良いように思う。炊事場もトイレもあるし災害があった場合に適していると思うが、地震の際の耐震強度がどれくらいあるのか分からない。

A：現在避難場所に指定しているのは旧入間小学校、公民館、コミュニティセンター（デイサービスセンター）、穴見集会所があります。災害の大きさによって避難する場所は変わってくると思いますが、土石流や洪水等を想定した防災ハザードマップの作成を予定しています。

旧掛合町では土石流関係の対策が主になってくると思いますが、かなりの公共施設が土石流の想定範囲に入ってくることが予想されるので防災計画の見直しもしていかなければいけません。阪神淡路大地震の際もそうでしたが、公の救助組織が現地に到着するまではそれなりの時間がかかるため、自主防災組織がとても重要になってきます。

今後は、地域福祉委員会、民生児童委員、コミュニティ、行政が一体となって地域単位から積み上げた防災地域計画を早めに作成していかなくてはなりません。

旧入間小学校については、体育館は校舎に比べると比較的新しいですが、校舎・体育館とも「絶対安全です」とは言えない状況です。（総務部）

三刀屋町三刀屋地区 三谷川の防災対策について

Q175

H18の三谷川の氾濫で大変な被害を受けた。2年経ったが何も対応しておられない。水害のない安全な地域にしていきたい。

A：排水ポンプの設置を目指して昨年から県へ協議に出かけたりして理解は頂いていますが、財政状況が悪く、当面予定がたっておりません。地区の皆さんにも随時説明しながら取り組んでいきたいと思えます。（三刀屋総合C）

A：県との協議を引き続き行い、排水ポンプ設置に向けてやっていきたいと思えます。（建設部）

A：排水ポンプの設置となると、市の財源だけではやっていけません。県と共同でやっておりますので、進

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

抄状況など地元で説明して、ご理解いただきながら実施していきます。（市長）

Q176：[関連質疑]

排水ポンプは早く設置できないのなら、ほかに出来ることからやっていけばいい。もっと身近なところで簡単に出来る対策があるはずだ。

A：やれることからやっていきます。（三刀屋総合C）

三刀屋町中野地区 防災計画について

Q177

防災マップですが、雲南市総務課で防災ハザードマップを作成されるとのことだが、中野の里づくり委員会でも今年マップを作ろうと思っています。市で作られるマップとの整合性や、マップを作るための支援がどのようになっているか伺う。分りやすいマップを作って避難場所などを載せていきたい。

A：雲南市では今年度、土石流とか自然災害の被害範囲を予測する防災ハザードマップを作成することにしてあります。秋ごろに完成する予定です。その中で防災計画に上げている避難所の見直しなどを行う予定です。

災害が大きな場合、必要な助けや支援は実際どのように行われるかですが、自主的な防災組織での救助が多いことから、初期には自助・共助・公助の3段階ありますが、まずは自ら守る自助、つぎに隣近所、自主防災組織の中でお互いに助け合う共助。最後は公助ですが、消防や関係機関が体勢を整えて行くまでには災害場所によってはかなり時間がかかる可能性もあります。

今後、雲南市も自主防災組織をいかに作っていくかが非常に大きな課題と思っています。地区で防災マップを作られることは、雲南市の考えとも同じで非常に有効な手段と思います。雲南市で作成するハザードマップについても今後、秋以降に説明会をする予定にしており、地域の皆さんがご存知の危険区域を教えていただき、意見を交わしながら協力して一緒に対応していかななくてはならないと考えています。（総務部）

三刀屋町中野地区 災害等緊急時の情報伝達について

Q178

情報の伝達の件ですが、現在三刀屋町は防災無線を使っているが、今後KKMのケーブルを使った防災用の放送を流す準備を今年と来年にかけてされるようだが、有線だと土砂崩れなどで電柱が倒れたりして切れて使えなくなる場合がある。緊急時どうされるのか。

A：告知放送は今年度と来年度の2カ年で整備します。現在、各戸にある個別受信機を有線の受信機に取替えさせていただくようになります。但し、防災無線は線が切れるということはありませんので、災害時に非常に有効なものであり、外部のスピーカーについては、今後も継続して使用する考えです。（総務部）

三刀屋町中野地区 尾原ダムの災害等への対応

Q179

中国の四川省のような災害が起きた場合、尾原ダムは大丈夫か。

A：尾原ダムは、しっかりとした設計に基づいて（建設を）やっていただいております。あってはなりません。災害がきた場合でも大丈夫と認識しています。（市長）

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

三刀屋町中野地区 高速道路に伴う災害対策について

Q180

中国横断自動車道で要望します。現在、工事が進捗していますが、当初国土交通省から言われていた説明よりは速いペースで進んでいると思う。工事に伴い、工事用道路で相当山林伐採しており、山の様子が変わり、自然環境も違ってきている。高速道路が完成して、もし、大雨などで泥水が大量に出た場合、現在われわれが使用している用水路に流れ込んでほしくない。検討をして対応をお願いしたい。

A：高速道路の災害対策についてももしっかり対応してほしいとのことで、市としても状況をしっかり把握し、現場を国土交通省と見て対応したいと考えます。（市長）

加茂町（加茂赤川連合・加茂中団地） 消防の受託について

Q181

斐川町は消防の受託問題で困っている。斐川町と提携する考えはないのか。

A：提携の計画はまったくありません。斐川町は出雲市と協議中であり、進捗状況はわかりませんが、一日も早い協議が整うよう願っています。（市長）

Q182：[関連質疑]

市が積極的に受託できないのか。

A：地域の方が安全安心に暮らせることが大事で、現在県が広域消防のあり方を検討しておられます。（全国的にも）30万人に1施設と言われていました。そうすると、70万人の島根県は3つ程度の組織となりますが、個別組織については、県全体のあり方とすり合わせの中で行われると思います。（市長）

木次町八日市 雲南警察署移転に伴う代替施設について

Q183

現在の警察署から木次小学校は約3キロ、現在建設中の新しい警察署から木次小学校は3.5キロなので移転しても距離的に影響はないように思えるが、地域住民は木次町から赤い電灯が消えるということを心配している。また、雲南市内320件のこども110番の家がある中、八日市地区で45件のこども110番の家があることを知っていただきたい。しかし、こうした民間の力には限界がある。雲南警察署ができてしまっちは、木次町から赤い電灯が永久に消えてしまうだろう。そういったことのないようお願いしたい。

A：警察は島根県の管轄ですので今回のご意見を警察に伝えます。（総務部）

A：この点については、議会より同様の意見を頂いており、既に要請していますが、なお一層要望していきたいと思います。（市長）

木次町八日市地区 災害対策について

Q184

災害対策についてお聞かせ頂きたい。当八日市地域は秋葉山と久野川に挟まれた地域で、ひとたび自然災害が発生した場合は、大災害につながる恐れがある。こうした災害が発生した際に市としてどのような対応をして頂けるのかお聞かせ頂きたい。特に高齢者の多いこの地域が安心できるような回答を頂きたい。

A：雲南市では、災害対策の重要課題として自主防災組織の結成を考えています。また、今年度中に洪水や土石流災害の被害範囲を予測した防災ハザードマップを作成し、お配りする予定としています。この防災ハザードマップを活用して、地域自主組織とどのような対応ができるのか協議していきたいと考えています。例えば、200年に一度の豪雨災害が発生した場合などの雨量によって避難場所を変えていく必要があるといった問題について、避難場所の想定等をご相談させて頂きたいと考えています。

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

また、災害弱者の情報についても地域自主組織の中で共有していただきたいと考えています。阪神淡路大震災では大部分が地域の防災組織や近所の助け、いわゆる共助によって救われています。大災害の場合、公助といった行政や消防が現場に到着するには一定の時間が必要となります。

一番有効な手段は、やはり、自主防災組織を組織し、隣近所で助け合うことであると考えます。

市でも防災計画は毎年更新していきませんが内容については大きな計画なので、実際にはこの道を通って避難するといった地域独自の防災マップを作成して頂きたいと思います。

平成18年の豪雨災害の際は、三刀屋町内で避難を勧告しましたが、災害弱者の方の避難についてどうするかといったことがありました。そうしたことから、市内福祉施設と協議し優先的に空きベッドを確保していただく等のお願いをしております。こうした情報をそれぞれの地域と共有しながら、それぞれにあった防災計画等を作成していただきたいと考えています。自主防災組織や防災マップの作成について今年の秋ごろを目処に協議の場を設けたいと思いますので、その際はご協力を賜りたいと思います。

（総務部）

Q185:[関連質疑]

八日市地域づくりの会でも自主防災組織を立ち上げる準備をしている。しかし、大地震があった場合に避難所となるこの八日市会館には毛布の一枚もない。予算のこともあるので無理かとは思いますが、そうした状況の中でどうしたら良いかを考えて、八日市は昨年既に防災マップをすでに作成した。また色々アドバイスを頂きたい。

A：現在の防災計画では、伝達マニュアルが作成されておりません。今年度中に作成することにしていきます。
（市長）

木次町三新塔地区 三新塔地区における防災対策について

Q186

26区から30区は崖沿いに家があり災害に弱い地域であるが、災害時に高齢者等の災害弱者の対応を自治会で相談したことがない。先ほどの話の中で秋ごろに防災マップの作成にあたり協議の場があると聞いたがぜひともそうした機会を最大限に活用し、よりよい防災マップにして頂き、我々もそれを参考にしながら勉強していきたい。

A：防災マップについては市で作成しますが全体的なマップであり、市としてはそれを基に地域独自の細やかなマップの作成を含めて自主防災組織の結成も急がれます。

また、先ほど災害弱者の方のお話がありましたが、そうした方が事前に自主避難をされる場合は、福祉施設に依頼して優先的にベッドを確保するなどの協議を行っており、そうした情報を共有しながら地域の防災組織と連携していきたいと考えています。（総務部）

Q187:[関連質疑]

当地内を流れる案内川は昔から氾濫の川であった。また26区から30区にかけては急傾斜地で過去に土砂災害に遭ったことを忘れてはならない。崖地対策について万全と伺っているが、素人が見てこれで大丈夫かと思う箇所がある。崖地についてふきつけをしたかどうかという意見が出たが危険箇所を点検して頂きたい。

A：災害が起きそうな危険箇所については、事前に対策が必要と考えていますので現場を確認の上、対処したいと思います。

また、いざというときの避難場所や避難経路については、市の努力もさることながら地元による事前に話し合い等が非常に重要と考えています。地域自主組織が設立された中、その組織の中で防災対策についても組織内の活動として実施して頂きたいと思います。（市長）

木次町三新塔地区 斐伊川堤防の現状について

Q188

防災について斐伊川の堤防で一番弱いところはどこかなどの研究をして河川の工事等を行っていると思うが

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

斐伊川堤防の現在の状況を教えてください。

A：斐伊川の堤防のどの部分が弱いのかということについては、平成22年度には尾原ダム、平成20年代半ばには放水路が完成した後は、上流部、中流部は水害の危険から免れると思います。仮に堤防の危険度の高い箇所についても工事完成後はほとんど危険の無い箇所になっていると思います。国土交通省にはもちろん堤防の具体的な状況の数字について持ち合わせているかと思いますが、（市長）

木次町西日登地区 防災対策について

Q189

防災計画について各組織に配布されたようだが、周知の方法について、ホームページという話がでていますが万民に伝えるというのは難しいのではないかと。周知方法を考えてほしい。行き止まり道路について回答を頂いているが、道路を新しくというのは難しいのは分かるが、いまの段階で災害がおこったら地域への救助隊の派遣や、行き止まり地域の住民のところへはどうやって行くのか。

A：防災計画については基本的なものを記載しているのでこれから細部について肉付けをしていく計画です。現在防災ハザードマップを作成中で秋には原案が作成される予定です。しかし、このマップは全体的なもので、地域を隅々まで考えたものではありません。このマップを基に自主防災組織等により、災害弱者等の避難の仕方について話し合いを持っていただきたいと思います。大災害となった場合は消防や警察といった公助は到着が間に合いません。阪神淡路大震災のときも救助された人のうち実に9割以上の方が自助・共助により助け出されたというデータもあります。（総務部）

木次町温泉地区 防災対策について

Q190

危機管理について、すべての避難所を把握しているのか。テレビがないなど情報収集ができない施設や斐伊川沿いにある漆仁の避難所は床下・床上浸水する場所である。全体ではこうした状況の施設がたくさんあると思うが確認するべきではないか。

A：洪水予想や土砂災害の危険地域について示す防災ハザードマップを今年度中に作成する予定としております。現在考えているのは自治会や自主組織にその原案を示した中で避難所について適正かどうか確認していきたいと思っています。秋から市内への説明会併せて、自主防災組織について結成をお願いしたいと思っています。皆さんご存知かと思いますが、阪神淡路大震災の中では、隣近所（の人）に救助されたケースが一番多かったということが実証されています。市内でも避難経路を示すといった詳細なマップを作成している地域もあるので、ぜひともこの地域でも検討して頂きたいと思います。（総務部）

木次町日登地区 防災計画について

Q191

雲南市防災計画があることは知っているが、住民への周知が不足している。いざ、災害が発生した場合、生命を守ることが第一であるが、危険箇所から離れることも重要だと思う。そのルートを地域防災計画に盛り込んでほしい。行政と連携しなければ、地域自主組織だけではできない。その辺の考えを伺いたい。次に、三刀屋高校ともう1箇所、ヘルメットをすえつける予算がついたときいている。これは本当か。本当ならば、この日登公民館にも予算をつけていただくようお願いする。一部の人たちで進めるのではなく、全体に話して進めてほしい。

A：地域防災計画は、あくまでも基本的な事項を定めています。防災マップなどの作成ができてはじめて防災の活動できると考えています。市では、ハザードマップを作成中です。これは、危険区域の想定、土

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

石流が想定される地域の危険度を示した地図です。

これが秋ごろ完成。その地図をもとに、どこを避難場所に指定したらよいかを地域と協議したいと考えています。

阪神淡路大震災の時には、被災者の72%は自助や地域の自主防災組織の手によって救助されています。この秋から、説明会を開催しながら、地域を歩いて市内全域の自主防災組織についてまわり、防災マップを作成するとともに、地域自主防災組織の結成を働きかけていきたいと思えます。災害情報の中で、障害のある方、弱者の方の情報は自主防災組織で持っていて、最初の救助活動については自主防災組織で対応していただく必要があると考えていますので、今後いろいろと協議をさせていただきたいと思えます。

ヘルメットの件。これは恐らく、防災まちづくり事業という補助事業だと思います。この事業によって防災備品が購入できるものです。今年は三刀屋と木次の斐伊の2つが指定を受けています。その中で整備を予定していると思えます。（総務部）

大東町大東地区 防火用水確保について(頭首工について)

Q192

去る8月11日田中下自治会内で火災が発生した際、赤川の水位が下がっており、小型ポンプでは堤防からは給水できなかった。水位低下の原因は頭首工から水が漏れていたためであった。総合センターに頼んでもなかなか措置がしてもらえなかったが、議員に頼んだらすぐに措置がなされた。迅速な対応をお願いしたい。

A：議員の要望だから速く動いたということは決してありません。常に迅速に対応する信念です。頭首工は雲南市全体の問題でもあり、動きにくくなっている頭首工がかなりあります。今回は指摘により人力で直したということですが、迅速に対応しますので、市民の皆さんがお気づきのことがありましたら遠慮なくおっしゃっていただいで迅速に対応したいと思います。（市長）

大東町大東地区 中洲の除去について

Q193

赤川、阿用川には中洲がかなり貯まっている。洪水の原因につながるので中洲の除去について現地を見て検討いただきたい。

A：河川の管理は島根県ですので、県と協議しながら要望をあげています。大東総合センターとしては河川の草刈を主体に進めています。地元の声を聞き、実態を把握しながら県の方へ強く要望していきます。（大東総合C）

A：河川の集拙の問題は、県に現場を見てもらって強く働きかけていきたいと思えます。（市長）

大東町塩田地区 災害復旧への対応について

Q194

この間、ある方から災害がでたが、大東の総合センターで「雨が降っていないからどうにもならないといわれた。」と言われたそうだ。でも実際、ゲリラ豪雨ということがあり奥部では降っている。道路や田んぼの傾斜がぬけたが、雨が降っていないからだめだといわれた。非常に寂しい気がした。先ほどの説明で、確かに農業に対し関心をもっていただき、大事にしていることはわかるが、それとは反対の事かなと思う。確かに中心部に雨が降らず数字上で言われればそうかなと思うが、何か対策はないのか。

A：確かにこの間の雨は、塩田60mmは降っています。塩田以外にも困っている場所があり、すぐ本庁に相談をしましたが、他の大東町内では20mmそこそこしか降っていない状況でした。

そういった場合は対策が難しいという回答をいただいでおり残念です。これからまだ秋雨前線に向かっ

平成20年度市政懇談会質疑（項目別）まとめ

て時期があるので地元の皆さんとともにその状況をみたいと考えています。
災害があったときには、とにかく一報を早く入れていただきたい。こちらの方もなるべく早く対応したいと思っておりますが、決まりは決まりであり、市で決定して災害復旧の対応するのは困難であり、国の補助を取ってやっていくことになりますのでご協力いただきたいと思っております。（大東総合C）